

## ご家族の声を紹介します

### 父母と「まきば」の思い出

萩原 義昭 様  
(萩原忠臣様・壽美様ご家族)

2010年8月28日。父忠臣99歳、母壽美89歳が「まきば」に入居することになりました。

「まきば」では4年余母がお世話になり、父も母を看取ると言って同時に入居し半年余お世話になりました。

そして父は2011年2月25日に満100歳で召天、母は2015年4月22日に満94歳で召天、兩人とも「まきば」のスタッフ、入居者の皆さま、家族による納棺式、斎場での前夜式、告別式も親交のあった方、「まきば」の皆さまに送られ二人とも幸せな生涯だったと思います。心から感謝しています。

私たち家族は名古屋教会の会員であり、「まきば」の建設を計画していた戸田牧師の思いを受け父母が1993年頃から、県との施設認可交渉のため戸田牧師と共に福祉課の知人のところに度々足を運んでいたことを覚えています。そして、その時代の教区の皆さまの様々な協力もあってこそ実現できたのではと思っています。

また母の記録によれば1994年4月から7年間シルバーホーム「まきば」の理事を務めさせていただいていました。さらに、私の長女も「まきば」開設後2年余務めさせていただきました。自宅が守山だったため、朝早番の時は新守山駅5時25分のJRに乗り鶴舞經由黒笹降車、「まきば」まで通勤した時期がありました。



▲ご家族とご一緒にの食事を楽しまれました。

守山の自宅から「まきば」まで車で度々送ったこともありました。

当時の父母はまだまだ元気で二人で生活したい意思もあり、二人を自宅に残し早朝通勤が大変だった娘の為、1999年年末から鶴舞線秋中にマンションを借り、家族4人で引っ越し、娘をサポートしたことを思い出します。このように私たち家族はいつも「まきば」の関わり合いの中にあっただと思っています。

入居してからも父（満99歳）は週二日から三日は会社に出社し、10月15日の日本電気講演の準備、11月から12月にかけての安立社友会、横浜国立大学同窓会出席の準備などをして過ごしていました。その様な中、すばらしい出来事がありました。神の御心か、父が信仰告白を決意したのです。

戸田隠退牧師に相談、2010年12月6日愛知国際病院にて、母同席のもと、名古屋教会早乙女牧師司式により信仰告白をしました。これも「まきば」のスタッフ、入居者の皆さまの導きのおかげと家族一同喜びました。その後、12月15日に家族で満百歳を祝い、家族と共に自宅で新年を迎えました。

2011年1月26日「まきば」の買い物ツアーで、絨毯を購入、自分で私室に敷き2月5日躓き転倒、加湿器に背中をぶつけ肋骨を四本骨折し、翌日国際病院入院加療するも、2月25日に召されました。あっけない最期でした。その後、私は生かされているうちにもっと母と過ごす時間を作りたいと思い、週末、休みの食事時など頻繁に「まきば」を訪問しました。私自身「まきば」のスタッフ、入居者の皆さまとの交わりの中で、沢山の勉強もさせていただいたと思っています。そして4年後2015年4月22日、豊田厚生病院で召されました。父母を送り終の住処が『まきば』であったことは神の御心であっただと思っています。地域に根ざしたすばらしい施設になっていくことを祈っています。

